

平成20年度事業報告

1 研究テーマ

酒造用原料米の酒造適性に関する研究

2 研究の現況・進捗状況

(1) 概要

酒米研究会は、原料米の酒造適性を総合的に研究すること及び当該酒造期に使用される原料米の性質をできるだけ早期に把握し、その原料米に適した酒造管理を行えるようにすることを目的としている。

主な活動は、酒米研究会総会及び酒米懇談会の開催並びに原料米の全国統一分析である。また、本会は酒類製造技術者のみならず、育種・栽培関係者、米に関する研究者等、広く酒米に関心を持つ者も会員として受け入れている。現在の会員構成は、282名の個人と5機関から成っている。

酒米懇談会においては、杜氏技術の科学的伝承「清酒醸造における蒸米硬度と消化性」(1題)、酒米新品種「白鶴錦」について(1題)、清酒の呈味に関わるアミノ酸の生成に影響する醸造要因(1題)、九州の新しいお米「高温に強い「にこまる」と地産地消型酒米「吟のさと」(1題)、登熟期の高温がイネ遺伝子発現および米品質に及ぼす影響(1題)といった、様々な観点から話題提供をお願いし、活発な意見交換がなされ、参加者にとって大きな収穫になった。

原料米の全国統一分析は、19年度産米について例年どおり行い、103品種304点の原料米の分析値及び予測される性質について関係者に報告した。

平成20年度産米については早期に収穫された原料米について分析を行い、11月28日付で各支部に報告した。また、12月初めまでに各支部において分析が終了した結果について取りまとめ、第1次の速報として12月12日付で関係者に報告した。

(2) 研究会開催等

イ 平成20年度酒米研究会総会、第34回酒米研究会

① 開催月日 平成20年5月21日(水)

② 開催場所 広島市南区比治山本町16番27号

広島市南区区民文化センター

③ 配布資料:平成19年度事業報告、平成19年度決算及び20年度予算案、平成19年度産米の分析結果及び平成20年度産米の分析計画等

ロ 第32回酒米懇談会

① 開催月日 平成20年10月8日(水)

② 開催場所 東京都北区西ヶ原 財団法人東京都北区教育会館 大会議室

③ 講演内容 「杜氏技術の科学的伝承「清酒醸造における蒸米硬度と消化性」(朝日酒造株式会社 安澤義彦 先生)、「酒米新品種「白鶴錦」について」(白鶴酒造株式会社 小澤禎一 先生)、「清酒の呈味に関わるアミノ酸の生成に影響する醸造要因」(秋田県立大学生物資源学部 岩野君夫 先生)、「九州の新しいお米

高温に強い「にこまる」と地産地消型酒米「吟のさと」（独）農研機構・九州沖縄農業研究センター 坂井 真 先生）、「登熟期の高温がイネ遺伝子発現および米品質に及ぼす影響」（独）農研機構・北陸研究センター 山川博幹 先生）

④ 出席者 68名

(3) 原料米全国統一分析

(3-1) 原料米全国統一分析

イ 研究会支部の状況

原料米全国統一分析に関しては、平成20年11月末現在で参加しているグループ数は試料の採取を依頼している機関を含めて30機関である。

ロ 平成19年度産米の分析

平成20年1月～2月に前年から引続き平成19年度産米の分析を行い、103品種304点についての分析結果を集計し、平成20年5月初旬に日本酒造組合中央会長及び分析を担当した各支部に報告した。

ハ 平成20年度産米の分析

① 早期分析(0次分析)

平成20年度産米の性質把握のための予報的な資料として、事務局が行った酒米の分析データ及び各支部より報告を受けた造り初期の酒造概況、気象及び収穫に関するデータとを合わせ、本年産米の早期予測(0次)として平成20年11月28日付で関係者及び各支部に報告した。

② 1次分析

平成20年度産米については、12月初旬までに分析の終了した49品種、111点について結果をまとめ、0次分析結果と合わせ平成20年度産原料米の性質を予報し、平成20年12月15日付で関係者及び各支部に報告した。

③ 2次分析

2次分析までの結果については、平成21年5月13日付で関係者及び各支部に報告した。

(3-2) ホームページ

酒米研究会ホームページ(<http://www.sakamai.jp/>)において、平成20年6月初旬に平成19年度の酒米分析のデータ及び結果概要を加え更新した。データ公開後5ヶ月間のホームページアクセス件数は、約1400件であり、会員間で有効に活用されている。

(4) 刊行物発行等

・第32回酒米懇談会要旨集（平成20年10月）

(5) 研究連絡活動等

- ・平成19年度酒造用原料米全国統一分析結果（平成20年5月）
- ・平成20年度早期酒造用原料米全国統一分析結果（0次）（平成20年11月）
- ・平成20年度酒造用原料米全国統一分析結果（1次）（平成20年12月）